

QUARTERLY REPORT

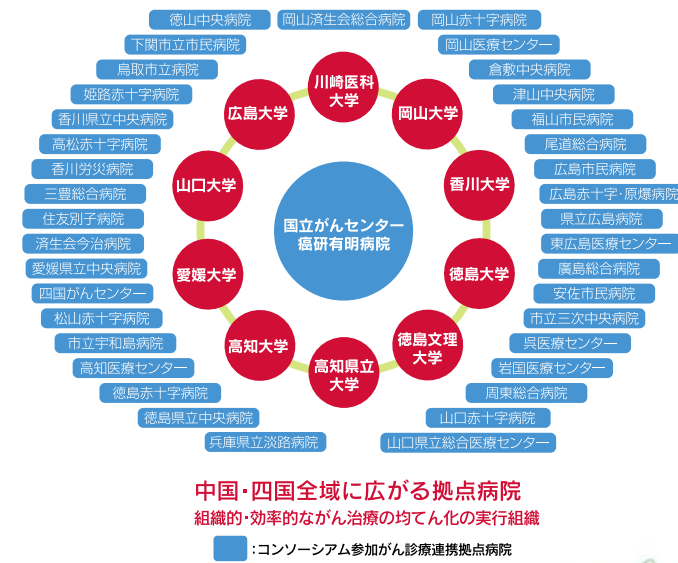


MANAGING OFFICE
2-5-1, SHIKATA-CHO, KITA-KU
OKAYAMA 700-8558 JAPAN
PHONE:086-235-7023 FAX:086-235-7552
<http://www.chushiganpro.jp/>

VOL.47
2016. OCT

趣旨・組織

がんは、わが国の死亡率第1位の疾患ですが、がんを横断的・集学的に診療できる専門家が全国的に少なく、その養成が急務とされています。また、近年の高度化したがん医療の推進は、がん医療に習熟した医師、薬剤師、看護師、その他の医療技術者等(メディカルスタッフ)の各種専門家が参画し、チームとして機能することが何より重要です。そのため、がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん専門医師及びがん医療に携わるコメディカルなど、がんにて化した医療人の養成をおこなうため、大学病院等との有機的かつ円滑な連携のもとにおこなわれる大学院のプログラムが「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」です。



ごあいさつ

本プランは、中国・四国地域に位置する10大学がひとつのコンソーシアムを作り、各大学院に多職種のがん専門医療人養成のためのコースワークを整備し、これに地域の37のがん診療連携拠点病院が連携することにより、広い地域にムラなくがん専門医療人を送り出すことを目的としています。

がんに関わる多職種の専門医療人が有機的に連携し、チームとしてがん診療ならびに研究にあたることのできるよう職種間共通コアカリキュラムの履修を出発点として教育研修をおこないます。また、国内外のがんセンターと連携し指導的ながん専門医療人養成のためのファカルティ・ディベロップメント(FD)を運動させ、大学院教員の教育能力を強化しています。

各大学・地域の持つ特色を活かし、互いに補完・止揚する教育拠点を確立します。高度なレベルで標準化された共通コアカリキュラムおよびeラーニングによる域内統一教育(共育)と、大学間連携による大学、分野、職種をこえた専門職連携教育(協育)をおこないます。また、英語教育と海外先進施設との連携により国際的に活躍する医療人の養成と、地域医療機関・患者会との連携による在宅高齢者ががん医療に貢献する専門医療人の養成をおこないます。これらの活動を通じて高度な専門知識に加え、チーム医療・リサーチマインドを身につけた全人的高度がん専門医療人が多数輩出され、中国・四国地域におけるがん治療の均てん化、標準化が実現され、各大学、地域における臨床研究や橋渡し研究の活性化を目指します。

当コンソーシアム事務局では、講演会、海外研修学生募集などの情報を広く発信することを目的としたクォーターリーレポートを発行しています。

本誌をきっかけに、大学院入学や各種セミナーへの参加等をご検討いただければ幸甚に存じます。

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム
事務局

研修報告

研修期間:平成28年3月14日~18日
 研修先:ESTRO School Particle Therapy Course

【研修参加者報告1】

岡山大学病院 医療技術部 放射線部門 青山 英樹
 岡山大学大学院 保健学研究科 准教授 笈田 将皇

この度、海外FD研修としてESTRO研修コース(平成28年3月14日~18日)に参加してきたので、その概要を報告する。今回受講した研修コースは、ESTRO(欧州放射線腫瘍学会)が主催する複数の研修コースのうち、粒子線治療(Particle Therapy)に特化した企画であった。本コースは5日間設定され、かなり過密なスケジュールで講義や施設見学が行われた。本研修は、中欧に位置するクラクフ市(ポーランド)のAndel's Hotel内で行われ、市内病院施設での見学を除き、ホテル内で大部分の講義がなされた。

講義内容は、研修コースの設定通り、粒子線治療に関するものばかりであり、加速器(サイクロトロン、シンクロトロン)の管理、粒子線(陽子線および炭素イオン線)の生物学的な影響、治療計画の考え方、臨床成績などについて、主にX線治療と対比しながら解説がなされ、講義ごとに10分程度の質疑応答及び議論がなされた。特に、重粒子線治療(炭素イオン線)については、日本が先駆的な臨床応用を実践しており、頻りに日本の状況と比較した議論が展開されていた。研修2日目では、施設を見学する機会が設けられ、貸し切りバスで参加者全員が移動し、クラクフ市外にあるポーランド初の粒子線(陽子線)治療施設を2~3時間程度、内覧させて頂いた。

研修プログラムと共に、具体的な内容を以下に示す。



参加メンバー:
 岡山大学 青山 英樹 岡山大学 笈田 将皇
 徳島大学 富永 正英 徳島大学 坂東 良太
 広島大学 齋藤 明彦

ESTRO School Particle Therapy		
March 14-18 2016, Krakow, Poland		
PROGRAMME		
Day 1		
08:30-08:45	Welcome	O. Jäkel
08:45-09:30	Introduction to clinical particle therapy	W. De Neve
09:30-10:15	Clinical radiation biology - molecular and cellular aspects	P. Peschke
10:15-10:30	Discussion	
10:30-11:00	Coffee break	
11:00-11:45	Physical aspects of particle therapy with protons and ions	A. Mazal
11:45-12:30	Particle Generation, Accelerator Technology	M. Schippers
12:30-13:45	Lunch	
13:45-14:30	Passive beam delivery for protons and treatment planning	A. Mazal
14:30-15:15	Active beam delivery and MBPT	T. Lomax
15:15-15:45	Coffee break	
15:45-16:15	Proton therapy: rationale with focus on pediatric oncology	J.-L. Habrand
16:15-16:45	Carbon ion therapy: rationale and clinical protocols	HIT teacher
Day 2		
08:30-09:00	RBE of protons and ions: biology	P. Peschke
09:00-09:30	RBE of protons and ions: modeling and uncertainties	O. Jäkel
09:30-10:00	Prescription and reporting carbon ion therapy	P. Fossati
10:00-10:15	Coffee break	
10:15-11:00	New biological insights on hypofractionation	P. Peschke
11:00-11:45	Carbon ion RT at NIRS: Clinical protocols and fractionation regimen	P. Fossati
11:45-12:45	Lunch	
12:45-13:30	Image guidance	T. Lomax
13:30-14:00	Modern proton therapy for pediatric cancers	J.-L. Habrand
14:00-14:30	Head/neck and CNS Tumors	M. Krengli
14:30-15:00	Coffee break	
15:00-15:30	Eye tumors	Local teacher
15:30-16:00	Skull base, parasagittal tumors and sarcomas	M. Krengli
16:00-16:15	Status of trials at HIT/CNAO	S. Combs/M. Krengli
16:15	REST OF THE FACILITY	

Day 3		
08:30-9:15	New technologies for hospital based particle centers	M. Schippers
09:15-10:00	Company presentations 10-15 minutes each	Companies
10:00-10:30	Coffee break	
10:30-11:00	Company presentations 10-15 minutes each (continued)	Companies
11:00-12:00	Round table discussion	All
12:00-13:00	Lunch	
13:00-14:00	Organ motion techniques for passive and scanning techniques	A. Mazal and T. Lomax
14:00-14:45	Liver/GI	W. De Neve
14:45-15:00	Coffee break	
15:00-15:30	Medical topic	
15:30-16:00	Medical topic	
16:00-16:30	Physics topic	
16:30-17:00	Physics topic	
Day 4		
9:00-9:30	trial methodology/therapy modeling	O. Jäkel
9:30-10:00	late toxicity/secondary malignancy/in vivo range verification	P. Peschke/T. Lomax
10:30-11:00	breast/LLET painting	E. Hug/O. Jäkel
11:00-11:30	Coffee break	
11:30-12:00	neurocognitive/QA acceptance and commissioning	J.-L. Habrand/A. Mazal
12:00-12:30	re-irradiation/prestate	P. Peschke/M. Krengli
12:30-13:30	Lunch	
13:30-14:00	Status of proton therapy trials	E. Hug
14:00-14:30	Pancreatic and rectal Cancer	P. Fossati
14:30-15:00	Lung cancer	E. Hug
15:00-15:30	Coffee break	
15:30-16:00	Basic dosimetry for proton and carbon ion RT and modern developments	O. Jäkel
16:00-16:30	When to decide for new technology	M. Schippers
Day 5		
08:30-08:45	Viewpoint of the radiation engineer	M. Schippers
08:45-09:00	Viewpoint of the radiation biologist	P. Peschke
09:00-09:15	Viewpoint of the radiation physicist	O. Jäkel
09:15-09:30	Viewpoint of the radiation oncologist	W. De Neve
09:30-10:00	Discussion	
10:00-10:15	Coffee break	
10:15-11:15	Randomized controlled trials are needed before introducing particle therapy as standard treatment	All
11:15-12:00	General O & A, final remarks	O. Jäkel

研修プログラム

放射線生物学の見地からみた粒子線の細胞作用機序、陽子線・イオン線の物質に対する物理作用機序、加速器の原理、粒子線照射技術の種類(Passive、Scanning)、小児がんでの粒子線治療の役割、重粒子線の役割と臨床プロトコル、重粒子線の生物学的な特性(計算モデル)、線量プロトコルの考え方、放医研(日本の施設。放射線医学総合研究所)での臨床プロトコル、臨床疾患と治療計画(脳腫瘍、眼科疾患、CNS、頭頸部、肝臓、前立腺、乳房、Chordoma、Melanoma)、照射技術(呼吸同期)、急性障害、晩期障害、再照射、加速器の品質管理(QA/QC)、現在実施中の臨床トライアル、次世代の粒子線治療技術。いずれの内容も先駆的施設での報告を題材として講義がなされた。

過去の海外FD研修で参加した米国の放射線治療施設見学やセミナー参加では、大部分がX線治療に関するものであり、成果として日本(岡山大学を含む)との比較、改善に非常に有益であった。しかし、粒子線治療に関する内容はこれまで国内外の研修においても詳しく知る機会がない状況であった。また、本年より岡山大学では岡山県内関連施設と粒子線治療を共同運用しており、本研修で学んだ知見は地域貢献を通じた人材育成におけるフィードバックとして期待される。

一般に、欧米の放射線治療システムは多職種・多人数(放射線腫瘍医、放射線治療専門看護師、医学物理士、線量測定技師、照射技師、治療計画CT技師、事務員など)で構成されているため、日本の状況とは大きく異なることが知られている。特に粒子線治療ではX線治療に比べて、加速器の運用や線量評価技術など非常に高度な知識・技術が要求されており、医学物理に深く精通した人材が必須な状況となっている。

国内では、今後X線治療から粒子線治療へのパラダイムシフトとともに治療施設の増加が見込まれるが、こうした施設における高度専門職の人材難が当面続くことが予想されており、がんプロの活動を通じて医工連携を深めながら、医理工学分野での人材育成を図る必要があると考える。

また、本海外FD研修を契機に、岡山大学病院、津山中央病院、岡山大学(医歯薬学、保健学)間で意思疎通を図れるよう、継続的な大学院生の受入れと研究会等を通じた交流を図ると同時に、臨床トレーニング(OJT)等、効率的に連携が可能な環境を構築したいと考える。地域病院では、診療放射線技師の資格を生かした専門職制度が徐々に認められつつあり対応が進んでいる。一方で、大学病院を中心とする確立されていない技術の医療応用では研究要素が強く、新型装置の開発や粒子線治療に関わる先進的な施設では研究(プロジェクト)型の専門職も必要とされており、研究応用力の高い理工学系出身者、博士後期課程進学者および博士号取得者も一定数必要であると考えられる。岡山大学としては、異分野融合領域を中心に多様性を重視し、臨床および研究分野で必要とされる人材を効率的に育成できる教育システムとキャリアパスを構築するとともに、臨床教育面においては、地域での指導者として高度教育を担える人材育成を同時に行うべきであると考えられる。

本研修を行うにあたり、FDワーキングの皆様をはじめ、事務の皆様のご尽力があって、このような研修が短期間のうちに実現しました。心より御礼申し上げます。



研修期間:平成28年3月14日～18日
研修先:ESTRO School Particle Therapy Course

【研修参加者報告2】

徳島大学 放射線治療学分野 助教 富永 正英
徳島大学 診療放射線技術部門 坂東 良太

1. 研修先において学んだこと

基礎的内容、臨床的内容、最新の粒子線治療の情報を学んだ。17日にはグループディスカッションを行い、Bronowice Cyclotron Centreにて施設見学を行った。また、治療、計画、固定具作成、検証等、それぞれの部門にて実際の装置を用いて説明も受けた。保険適用部位も増加し、今後ますます普及する粒子線治療の基礎から最新技術まで学べて非常に有意義な研修であった。

2. それをどのように教育に生かすか (いつまでに、どのような形で、どこまで)

若手の医療従事者や研修医、徳島大学の医学科と保健学科から実習生が放射線治療部門に多数訪れるので、その時に今回学んだことを教育していく予定である。また、保健学科の実習においては実習期間が短いこともあり、効率良く説明するために治療計画装置の使用、関連資料の提示など口頭だけでなく、画像を用いて説明し理解を深めよう。

3. それをどのように臨床に生かすか (いつまでに、どのような形で、どこまで)

将来、粒子線治療はますます普及してくることが予想される。X線治療が困難な患者を粒子線施設に紹介するなど、症例によって適切な治療方針を選択することが重要であると考えられる。現在四国には粒子線治療施設はないが、徳島で導入された際には積極的に立ち上げに関わりたい。

4. それを実行するための方策

受講して得た粒子線の資料を放射線治療部門のネットワークフォルダにて共有し情報共有をする。定期的にカンファレンスを開いているので、その時に意見交換をして今回得た知識を医師、技師、看護師に伝えたい。



講義の様子

【研修参加者報告3】

広島大学病院 放射線治療科 病院助教 齋藤 明登

1. 研修先において学んだこと

粒子線治療では、加速器技術、照射技術、計測技術等を含む放射線物理学が重要な役割を果たしており、各テーマについて基礎から最先端の話題まで幅広く学ぶことができた。その他に、粒子線治療の放射線生物学および臨床についても、基礎から最先端の内容まで網羅されたプログラムであった。また、講義の他に特定の話題に関する議論、論文紹介、ディベートも含まれており、講師が一方向的に講義をするのではなく、受講者が積極的に参加するための工夫がされていた。論文紹介では議論を誘発し意見が分かれる内容の文献が意図的に選択されており、ここでも受講者が参加できるような工夫が見られた。

施設見学では、医学物理士や診療放射線技師が7グループ（眼球照射、ガントリー、CTシミュレータ、固定具作成、計測機器、加速器、物理実験）の担当に分かれて約15名ずつのグループに7分ずつ説明を行い、僅か1時間で効率良い見学ツアーが実施された。

2. それをどのように教育に生かすか (いつまでに、どのような形で、どこまで)

粒子線治療は日本でも医学物理士を導入した分業化が進んでおり、また他職種によるチーム医療の様々な場面における医学物理士の介入が必要不可欠な分野である。本研修で学んだ内容は、特に医学物理学の大学院教育において、粒子線治療を含む放射線治療全般における高度な知識をもつ医学物理士の養成に役立てられる。また、放射線治療スタッフの教育、研修生受入れ時の教育においても、異なった特徴をもつ種々のモダリティの中で各施設のモダリティがもつ特徴や役割をより広い視点で理解するために活用する予定である。

広島大学病院では放射線治療における医学物理学の大学院教育のみならず、放射線治療におけるチームワークを重視したスタッフの研修、中四国の大学病院との連携、外部施設からの研修受け入れ、アジア近隣諸国への訪問教育にも力を入れている。今回の研修では粒子線治療の基礎から最先端の話題のみならず、短期間の教育コースを実施する際に教育効果を上げるための考え方や見学の際の対応方法について学ぶことができた。特に講義以外の議論、論文紹介、ディベート等は教育効果を高めるために積極的に導入を検討すべき形式であり、本学で実施する上記の教育活動に反映していく予定である。

3. それをどのように臨床に生かすか (いつまでに、どのような形で、どこまで)

前述の通り、広島大学病院では放射線治療における幅広い教育活動に力を入れている。特に臨床スタッフ向けの教育では、前述の教育が各職種スタッフの基礎知識となり臨床へ役立てられる。今回の研修では異なる職種のスタッフが、一部のセッションを除き同一の講義等を受講する際の利点および問題点等を認識することができた。放射線治療のワークフローの中で複雑に連携する多職種間のチームワークにおいて、個々のテーマに関する知識を各職種で適切に理解するために共通の講義等と職種毎の個別の講義等を組合せながら、効果的な放射線治療チームの育成に役立てていく予定である。最終的には、これらの教育活動を基盤とした放射線治療チームの体制が整備されることが期待される。

4. それを実行するための方策

平成28年度から「世界最高水準の放射線治療チームの育成と地域及びアジア近隣諸国への展開」事業が開始され、教育体制の整備が進行中である。本研修で学んだ講義、議論、論文紹介、ディベート、施設見学等の経験は、放射線治療チーム育成事業の活動で生かされる予定である。

平成28年度 第1回がん高度実践看護師WG講演会開催

がん患者の治療・療養・生活過程を支える高度な看護実践の展開
～在宅がん医療と高度な看護実践～

日 時:平成28年7月10日(日)13:00～17:00

場 所:岡山コンベンションセンター 3階 コンベンションホール

参加者:330名

総 合 司 会:宮下 美香(広島大学大学院)

講演会司会:藤田 佐和(高知県立大学大学院)、雄西 智恵美(徳島大学大学院)

がん高度実践看護師WG講演会では、ケアとキュアの統合を根幹に5年間の全体テーマを「がん患者の治療・療養・生活過程を支える高度な看護実践の展開」とし、1年単位でシリーズ化した講演会を年2回企画しています。平成28年度は「在宅がん医療と高度な看護実践」をテーマに第1回講演会を開催し、在宅がん医療の現状と展望や在宅医の役割と活動の実際、在宅がん看護の実際や看護師の役割について、お二人の講師にご講演いただきました。

【講演者】

・末永 和之 先生

すえなが内科在宅診療所 院長

「在宅がん医療の現状と展望」

「在宅がん医療における在宅医の役割と活動の実際」

・浜本 千春 先生

YMCA訪問看護ステーション・ピース 所長 がん看護専門看護師(OCNS)

「在宅がん医療における看護師の役割」

「在宅がん看護の実際」

【終了報告】

第1回がん高度実践看護師WG講演会は、中四国全域から330名もの多くの方にご参加いただき、有意義な会となりました。講演中は、熱心に耳を傾ける姿や学びを書き留める姿が多くみられ、看護職者の学ぶ姿勢と在宅がん医療における高度な看護実践への関心の高さを実感することができました。

在宅がん医療に積極的に取り組まれているお二人の講演を通して、在宅で生活するがん患者・家族が安心して自宅で過ごせるよう生活者の視点に立った医療や生活環境の調整を行う必要性を理解することができました。また、看護師は在宅で療養生活を送るがん患者・家族にとって、安心できる療養の場を提供できるコーディネーターとしてチームで協働しながら患者を支える役割を發揮することが重要であると再認識することができました。

参加者からは、「在宅での支援の大変さを知ることができた」「退院調整を行う過程では、思い込みで調整せず患者・家族の思いに寄り添う必要性が分かった」「在宅がん医療の中で、本人・家族の意思決定を行い、その上での橋渡しの仕方・方法を学ぶことができた」「病棟看護師として、今後どのように患者や家族と関わっていくのか考えていきたい」「患者が最期まで自身の役割を認識し、生き抜くことができるようにフォローや支援ができるよう考えていきたい」など、多くの意見を頂きました。



主催者の藤田先生



総合司会の宮下先生



司会の藤田先生と雄西先生

【全体のサマリー】

末永 和之 先生

末永先生ご自身が在宅医を志し歩んでこられた経験を踏まえ、現在、在宅診療所の院長として取り組まれている在宅がん医療の実際についてご講演いただきました。すえなが内科在宅診療所の医療理念は「病む患者・家族のつらさに寄り添い、ひとり一人のいただいた使命を全うされ、住み慣れた地域で、住み慣れた自宅で過ごすことが出来るような治療・ホスピス・緩和ケアの提供を行います」であり、先生がお話しされた在宅がん医療の具体例を通して、理念がどのように在宅医療に反映されているか理解することができました。また、日本の在宅医療の現状や山口県の在宅緩和ケア支援体制について説明をしていただき、国の施策や地域の実情に合わせて在宅医療を展開していく重要性について理解を深めることができました。

患者が生き抜いて逝くために、医療従事者が全人的苦痛を考慮し、その人らしい生活が送れるよう揺らぎにそつと寄り添い、見守ることの意義について述べられました。さらに、終末期がん患者の特徴やCancer Pain Reliefについて説明いただきました。看護師として、在宅看取りを希望するがん患者・ご家族の傍らで伴走し、そつと手を差し伸べられる存在になれるような看護支援の提供を目指し、望ましい看護の在り方を模索しながら実践していく必要性を改めて認識することができました。

最後に、末永先生から多くの患者様とのエピソードを紹介いただき、在宅医療チームで協働しながら最期までがん患者が在宅で生き抜くことを支え、少しでもQOLを維持向上できるよう支援していく看護の役割について考える機会となりました。また、先生のご講演の中で“在宅ホスピス・緩和ケアの要は訪問看護師さんです!!”とお話がありました。在宅で過ごす、あるいは在宅療養を希望する患者やご家族の支えとなり、在宅医療チームで協働して在宅療養を実現していく役割を訪問看護師に担ってほしいという期待を込めたメッセージとして伝わってきました。

浜本 千春 先生

浜本OCNSのご講演では、在宅がん医療に携わる看護師の役割を考える上で、がん患者やご家族から見た看護師像を理解することや自分の住む地域や職場の特性を理解し、家の歴史や日常生活、地域の歴史や文化を踏まえた看護支援を実践していくことの重要性について強調されました。在宅で共通している大事なことや当たり前のこととして、地域の文化や背景を知ること、相手の立場に立って語る意識を持つことや対象者の変化する気持ちにすなやかに寛容に関わることなど、看護師として大切にしたい姿勢について述べられました。在宅の現場において、がん患者やご家族がどんなことを望み、どんな課題や問題を抱えているのか説明をしていただき、看護師として在宅がん看護に携わる姿勢を改めて考える機会となりました。そして、医療従事者として私たち看護師がケア提供者として注意すべきポイントについて具体的に紹介いただき、在宅がん医療で看護師に求められる姿勢について理解を深めることができました。

浜本OCNSより、患者が在宅でよりよく過ごすために必要なこととして、今までどのように生きてきたのかを知り、患者が本来持っている力を最大限に引き出す支援や患者が中心となる症状マネジメントの工夫など、明日からの臨床現場で活用できるエッセンスを多く含んだご講演をしていただきました。そして、在宅における看護の実際について、経験豊富な事例を通して丁寧に教示いただき、在宅看護を実践していく上での重要な視点を学ぶことができました。また、訪問看護師の役割として患者・家族が直面している状況を理解した上で、患者の生活を支え、その人らしい人生が送れることができるように伴走する重要性を再認識することができました。



末永 和之 先生



浜本 千春 先生

【参加者アンケート結果】

参加者330名のうち253名(回答率76.7%、中国79.8%、四国18.5%、その他0.8%)から回答をいただきました。アンケートの結果、97.6%の参加者が、メインテーマ「在宅がん医療と高度な看護実践」について関心を持って参加していました。50.6%の参加者が都道府県がん診療連携拠点病院および地域がん診療連携拠点病院に所属していました。そして、95.7%の参加者が、在宅がん医療と高度な看護実践について具体的に理解することができ、94.5%の参加者が満足されていました。これらの結果から、参加者の在宅がん医療への関心は高く、講演会は社会の要請に応えることができていると考えます。さらに、多くの参加者が、「がん看護の専門的な学習を深める動機づけになった(94.9%)」、「がんのキャリアアップを目指す動機づけになった(89.3%)」と回答、27.7%の参加者ががん看護専門看護師の資格を取りたいと思っている。これらのアンケート結果から、高度な看護実践やがん看護への興味・関心の高さが伺え、本講演会はキャリアアップへの動機づけにもなっていると考えます。

今回の講演会で役立つと思われた内容について、「看護師の役割」「看護師としての姿勢」「看護の方法について」「在宅看護(医療)について」「生きることや死ぬことについて」「医療システムについて」などの15項目が挙げられており、参加者が在宅がん医療における高度な看護実践を考える上で、個人のニーズを満たす講演会であったと考えます。

平成28年度も、年2回の講演会に参加して頂いた方に参加証明書を発行いたします。第2回講演会は12月17日(土)に岡山コンベンションセンターにおいて開催予定です。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

文責:高知県立大学大学院看護学研究科 藤田 佐和



受付の様子



会場の様子



講演の様子

活動報告

高知 第8回 がんプロ国際セミナー

テーマ:地域医療について

日時:平成28年1月18日(月) 18:30~

場所:高知大学医学部

低侵襲手術教育・トレーニングセンター

参加者:29名

内容:

台湾大学学生と高知大学学生がお互いの大学と実習についてプレゼンテーションをした後、台湾と高知の地域医療・在宅医療について、英語でディスカッションをします。



終了報告

本セミナーでは、本学と台湾大学からそれぞれ1演題ずつプレゼンテーションを行いました。

参加者からは、「台湾のがんの現状、対策についても知れました。他の方の意見、質問も聞き、多くの情報が得られました。しかし、自分の英語力の足りなさから全てを聞きとれなかったのも、もっと頑張ろうと思いました。」などの意見がありました。

岡山 第22回 岡山大学がん放射線科学コース(インテンシブコース)セミナー

日時:平成28年1月20日(水) 19:00~20:30

場所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第4カンファレンスルーム

参加者:6名

座長:岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹

「放射線治療品質管理基礎技術21(HDR, LDR治療技術の実際と管理)」

岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画している。今回のセミナーでは第22回目としてChapter22, 23を中心に、HDR, LDR治療計画技術、照射技術、線量計算アルゴリズム、品質管理手法などについて解説がなされました。大学院生が参加者の大部分を占めましたが、全員、熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

岡山 第6回 岡山大学がん放射線科学コースインテンシブコース地域連携セミナー

日時:平成28年1月27日(水) 19:00~20:30
場所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第4カンファレンスルーム
参加者:15名

座長:岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

「北大病院におけるJJ1017コードの導入について」
岡山大学病院医療技術部 放射線部門 濱口 裕行

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーでは、市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、北大病院におけるJJ1017コードの導入についてと題し、岡山大学病院医療技術部の濱口裕行先生より講義して頂きました。セミナー講義では、近年の医療情報システムの話題および放射線情報システム(RIS)に関する運用規格であるJJ1017コードを中心に、北大病院での導入事例を講義して頂き、それらの有用性ととも将来展望についても解説がなされました。大学院相当の内容にもかかわらず、専門資格の取得に向けて大学院生、社会人らが熱心に話を聞く姿勢が見られました。



岡山 第23回 岡山大学がん放射線科学コース(インテンシブコース)セミナー

日時:平成28年2月3日(水) 19:00~20:30
場所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第4カンファレンスルーム
参加者:8名

座長:岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹

「放射線治療品質管理基礎技術22(IGBT治療技術の実際と管理)」
岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画している。今回のセミナーでは第23回目としてChapter24、25を中心に、血管小線源治療技術、IGBT、線量計算アルゴリズム、IGRT、品質管理手法などについて解説がなされました。大学院生が参加者の大部分を占めましたが、全員、熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

山口 第9回 がん治療スキルアップコース(インテンシブ)セミナー

テーマ:CNSの活動

日時:平成28年2月5日(金) 18:00~19:00
場所:山口大学医学部附属病院 第2中央診療棟 3階 多目的室1・2
参加者:6名

司会:山口大学大学院医学系研究科保健学系学域
臨床看護学分野 齊田 菜穂子 先生

「がん看護専門看護師として」
がん看護専門看護師 岩月 まり子 先生

終了報告

この度、がん看護専門看護師の岩月まり子先生をお招きし、「がん看護専門看護師として」と題してご講演いただいた。
まず、専門看護師の制度の目的や現状について述べられ、専門看護師の役割には「実践」「相談」「調整」「倫理調整」「教育」「研究」の6つがあると説明があった。
次に、専門看護師のうち特に「がん看護」について、「実践」「相談」「調整」「倫理調整」の4つの役割を事例をあげながら、臨床現場で専門看護師としてどのように活動してきたか述べられた。
少人数ではあったが、講演後は活発な質疑応答もあり、有意義なセミナーとなった。



徳島 第8回 徳島がん医療に携わる医師のためのコミュニケーション技術研修会

日時:平成28年2月20日(土) 10:00~18:00
平成28年2月21日(日) 9:00~15:00
場所:徳島大学 総合研究棟2階 スキルス・ラボ
参加者:9名

内容:
難治がん、再発、抗がん治療の中止など悪い知らせを患者(小児では親)に伝えるロールプレイ

終了報告

事前の申し込みは4名だったが、残念ながら1名キャンセルとなり、実質3名1グループでの開催となった。参加された3名は、20代の若手1名と40代のベテラン2名となった。若手は経験不足が否めなかったが、ベテラン2名から適切なアドバイスがなされ、SHAREを身につけられた。ベテランの2名はロールプレイをされることで日頃の問題点を明確にされ、自身のスタイルからSHAREを習得して大きく変化された。最後には素晴らしい患者への共感・配慮する医師を演じられた。受講者の今後の活躍が期待される研修会であった。
参加者からは、「SPさんの臨場感溢れる演技に圧倒されました。実際の臨床現場に望んでいる感じでした。」「実は過去に患者から『主治医変えてくれ』と言われたことがありました。自身を振り返ることが出来ました。」「参加して良かったです。ロールプレイで繰り返し学べたので勉強になりました。」等の感想が聞かれ、いずれの受講者からも高評価を頂いた。



岡山 第24回 岡山大学がん放射線科学コース(インテンシブコース)セミナー

日時:平成28年2月24日(水) 19:00~20:30
 場所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第4カンファレンスルーム
 参加者:7名

座長:岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹

「放射線治療品質管理基礎技術23(粒子線治療技術の実際と管理)」

岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画している。今回のセミナーでは第24回目としてChapter26を中心に、粒子線治療技術、線量評価手法、品質管理手法などについて解説がなされました。大学院生が参加者の大部分を占めましたが、全員、熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

高知 第4回 インテンシブコース(在宅がん医療・緩和医療)在宅がん医療講演会

日時:平成28年2月27日(土) 14:00~15:30
 場所:ザ クラウンパレス新阪急高知 4階 フローラ
 参加者:51名

司会:高知大学医学部医療学(公衆衛生学)講座 宮野 伊知郎

「地域全体でがん患者さんを支えるということ」

浜松医科大学看護学科地域看護学講座
 山岸 暁美 先生



終了報告

本講演会では、浜松医科大学看護学科地域看護学講座の山岸暁美先生を講師にお招きし、「地域全体でがん患者さんを支えるということ」と題して、OPTIM(がん対策のための戦略研究「緩和ケア普及のための地域プロジェクト」)や、実際に山岸先生が関わられた各地域での事例などを交えながら講演いただきました。参加者からは、「地域でのシステム構築を考える機会となりました。」「退院支援ラウンド、退院カンファレンスの重要性をさらに認識することができました。在宅での看取りも含め支援の大切さを学ぶことができたように思います。ありがとうございました。」などの意見がありました。

徳島 PHITS講習会

日時:平成28年3月5日(土) 11:00~17:30
 平成28年3月6日(日) 9:30~15:00
 場所:徳島大学蔵本キャンパス 医学部基礎B棟1階 基礎第一講義室
 参加者:17名

講師:古田 琢哉 先生(日本原子力研究開発機構)
 特別講師:松本 真之介 先生(放射線医学総合研究所)

講習会プログラム

- 3月5日(土)
 - PHITSのインストール
 - PHITSの概要説明(最近の動向)
 - 例題を使った復習(陽子ビームで雪だるまを溶かそう)
 - 様々な線源の設定方法
 - IAEA phase space file の使い方

3月6日(日)

- DICOM医療画像のPHITS入力形式への変換の仕方
- PHITS線量分布のDICOM RT dose形式への変換の仕方
- 治療計画シミュレーションの実習
- まとめと質疑応答

終了報告

本学で2回目となるモンテカルロシミュレーションの講義と実習を行った。今回は放射線治療における具体的な応用を主とした講習内容であり、大変有意義であった。参加者からは、「臨床に携わる内容であり、大変有意義であった。また、講師の先生方の丁寧な指導のおかげで理解が深まった。今後も基礎編、応用編を継続して行って欲しい。」などの感想が聞かれた。



岡山 第25回 岡山大学がん放射線科学コース(インテンシブコース)セミナー

日時:平成28年3月9日(水) 19:00~20:30
 場所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第4カンファレンスルーム
 参加者:6名

座長:岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹

「放射線治療品質管理基礎技術24(総合演習1)」

岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画している。今回のセミナーでは第25回目として総合演習と題して、専門資格取得に向けた問題演習および解説がなされました。全員、熱心に勉強する姿勢が見られました。

徳島 市民公開講座

テーマ:がんを知りがんを克服する～副作用の少ない分子標的薬の時代を迎えて～

日 時:平成28年3月6日(日) 13:30～16:00
場 所:徳島大学蔵本キャンパス内 長井記念ホール
参加者:267名

開会挨拶
中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラム
カリキュラム企画運営委員長 丹黒 章 氏

【第一部】
司会:徳島大学大学院 医歯薬学研究部
消化器内科学分野 教授 高山 哲治 氏

講演1「ここまできている肺がん治療」
徳島大学大学院 医歯薬学研究部
呼吸器・膠原病内科学分野 准教授 埴淵 昌毅 氏

講演2「大腸がんに対する新しい薬物療法」
徳島大学大学院 医歯薬学研究部
腫瘍内科学分野 講師 宮本 弘志 氏

講演3「腎がんに対する新しい薬物療法」
徳島大学大学院 医歯薬学研究部
泌尿器科学分野 准教授 高橋 正幸 氏

【第二部】
司会:徳島大学大学院 医歯薬学研究部
呼吸器・膠原病内科学分野 教授 西岡 安彦 氏

講演4「悪性黒色腫(メラノーマ)に対する新しい薬物療法」
徳島大学大学院 医歯薬学研究部 皮膚科学分野 助教 松立 吉弘 氏

講演5「甲状腺がんに対する新しい薬物療法」
徳島大学大学院 医歯薬学研究部 胸部・内分泌・腫瘍外科学分野 講師 滝沢 宏光 氏

開会挨拶
中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラム カリキュラム企画運営委員長 丹黒 章 氏

終了報告

今回の市民公開講座は「がんを知りがんを克服する～副作用の少ない分子標的薬の時代を迎えて～」というテーマで、徳島大学蔵本キャンパス内の長井記念ホールで講演を行った。267名の市民の参加があり、「ここまできている肺がん治療」、「大腸がんに対する新しい薬物療法」、「腎がんに対する新しい薬物療法」、「悪性黒色腫(メラノーマ)に対する新しい薬物療法」、「甲状腺がんに対する新しい薬物療法」という5つの講演を行った。参加者は熱心に聴講され、がんの予防に対する知識を深めていただけたと思う。

参加者からは、「がんに対しての薬剤の進歩に驚いています。」「新しい治療に期待が高まりました。検診を受ける必要があると思いました。」「難しい話が多かったが新しい薬が続々と利用できるようになり心強い。」「次回はいよいよ臓がんの講演をお願いします。」などの感想が聞かれた。

主催者コメント

県民購読率90%の徳島新聞社と共催した市民公開講座であったため、通常の講座よりもはるかに大きな広告効果があり、267名もの多くの市民にご参加いただけた。講演会前の新聞記事、パンフレットにより、参加者はがんの予防についてより深い知識が得られたと思う。会場の都合により参加者数が限られていたが、当日出席できなかった人にも新聞紙上で内容を周知したため、がんの知識だけでなく大学における教育、研究活動についてもより多くの人に深く理解してもらうことができたと思われる。今後も継続してこのような公開講座を開催したい。



徳島 臨床腫瘍地域医療学コース(インテンシブ)第9回地域医療セミナー

テーマ:これからの日本のがん対策と徳島県におけるがん診療連携・相談支援

日 時:平成28年3月10日(木) 19:00～21:00
場 所:徳島大学病院 日垂ホールWhite(新外来棟5階)
参加者:57名

総合司会:徳島県がん診療連携協議会診療連携部会 部会長
金山 博臣 先生

開会挨拶:徳島県がん診療連携協議会 会長 埴淵 昌毅 先生

座長:徳島県がん診療連携協議会 会長 埴淵 昌毅 先生

「がん対策加速化プランと今後のがん対策の方向性について」
国立がん研究センター がん対策情報センター長
若尾 文彦 先生

座長:徳島県がん診療連携協議会診療連携部会 部会長
金山 博臣 先生

「徳島県のがん対策について」
徳島県保健福祉部 健康増進課 平田 佐和子 主査兼係長

「徳島県におけるがん診療連携と相談支援の取り組み」
徳島県がん診療連携協議会 会長 埴淵 昌毅 先生

「患者から見る診療連携と相談支援」
患者団体「ガンフレンド」 川崎 陽二 副代表

開会挨拶:徳島県医師会 副会長 木下 成三 先生

終了報告

今回のセミナーは、徳島県がん診療連携協議会主催、徳島県医師会、徳島県、中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムの共催のもと、これからの日本のがん対策と徳島県におけるがん診療連携・相談支援をさらに発展させるために開催された。今回は、「がん対策加速化プランと今後のがん対策の方向性について」「徳島県のがん対策について」「徳島県におけるがん診療連携と相談支援の取り組み」「患者から見る診療連携と相談支援」の4演題について講演があり、がんの診療連携が深められた。また、徳島大学病院と徳島県の医師、看護師など医療従事者が参加し、がんの地域連携が深められた。



愛媛

第3回 愛媛大学がんプロフェッショナル養成インテンシブコース講習会

日 時:平成28年3月15日(火) 18:30~20:00
場 所:愛媛大学医学部 第2ゼミナール室
参加者:26名

教育講演
座長:愛媛大学医学部附属病院 看護部 師長 笠屋 千晶

「**がんとリハビリについて**」
愛媛大学医学部附属病院 中央診療施設
リハビリテーション部 西村 勇介

特別講演
座長:愛媛大学医学部附属病院 整形外科 講師 木谷 彰岐

「**悪性軟部腫瘍への薬物療法について**」
がん研有明病院 総合腫瘍科 仲野 兼司

閉会挨拶:愛媛大学大学院医学系研究科 臨床腫瘍学 教授 薬師神 芳洋

終了報告

本講演会は、整形外科のみならず、さまざまな診療科で遭遇する可能性がある軟部肉腫をテーマに企画されました。本疾患の治療は、ドキソルビシン、イホスファミド、パゾパニブなどに限られていましたが、最近では、トラベクテジン、エリプリンの承認による選択肢が広がっています。教育講演では、がん患者のリハビリをテーマに、リスク管理、精神心理的配慮、多職種の情報共有・連携、本人・家族のニーズの確認と目標設定などを中心に、当院リハビリテーション部の西村勇介先生にわかりやすく解説していただきました。特別講演では、「悪性軟部腫瘍への薬物療法について」と題して、肉腫の疫学、小円形肉腫の治療戦略、非円形肉腫の術前、術後療法、再発・転移肉腫患者の薬物療法について、トラベクテジン、エリプリン、パゾパニブなど新規抗がん剤のエビデンス、有害事象管理、使い分けなどの幅広い内容を、がん研有明病院総合腫瘍科仲野兼司先生にご講演いただきました。院外からも多数の参加者があり、講演会終了後も活発な質疑応答がありました。希少疾患に関する内容だけに特に有意義な講演会であったと考えます。



岡山

第26回 岡山大学がん放射線科学コース(インテンシブコース)セミナー

日 時:平成28年3月16日(水) 19:00~20:30
場 所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第4カンファレンスルーム
参加者:4名

座長:岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹

「**放射線治療品質管理基礎技術25(総合演習2)**」
岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画している。今回のセミナーでは第25回目に引き続き、第26回目も総合演習2と題して、専門資格取得に向けた問題演習および解説がなされました。全員、熱心に勉強する姿勢が見られました。

山口

緩和ケアセミナー in YAMAGUCHI

日 時:平成28年3月26日(土) 13:30~17:00
場 所:ANAクラウンプラザホテル宇部 3階 万葉
参加者:60名

開会挨拶
山口大学大学院医学系研究科 消化器・腫瘍外科学
教授 永野 浩昭 先生

がん診療連携拠点病院 報告
座長:山口大学大学院医学系研究科 消化器・腫瘍外科学
助教 鈴木 伸明 先生

済生会下関総合病院、周東総合病院、都志見病院
徳山中央病院、長門総合病院、山口宇部医療センター
山口県立総合医療センター、山口赤十字病院
山口大学医学部附属病院

特別講演
座長:山口大学医学部附属病院 腫瘍センター
准教授 吉野 茂文 先生

「**緩和ケアと地域連携 -がんは克服できるか-**」
川崎医科大学臨床腫瘍学 教授 山口 佳之 先生

閉会挨拶
山口大学医学部附属病院 腫瘍センター
准教授 吉野 茂文 先生



終了報告

この度、ANAクラウンプラザホテル宇部において「緩和ケアセミナー in YAMAGUCHI」を開催した。セミナーの前半は、山口県のがん診療連携拠点病院のうち9施設による緩和ケアに関する活動報告を行った。各施設は「在宅緩和ケア」「緩和ケアチーム」「がん患者サロン」「がん相談」の4つのテーマのうち1つを選択し、選択したテーマに沿って発表を行った。医師、看護師、MSWの多職種からなる発表者の報告は、施設間および医療者間において幅広い専門分野の知識の習得、意識改革につながった。会場では、活発な質疑応答もあり大変盛会であった。

後半は、特別講師として川崎医科大学臨床腫瘍学教授の山口佳之先生をお招きし、「緩和ケアと地域連携-がんは克服できるか-」と題して特別講演を行った。講演では、疼痛緩和のABCとレスキューや、先生ご自身が所属している緩和ケアチーム「カワサキ」の活動、緩和在宅医療連携についてなど、大変貴重なお話をいただいた。参加者のアンケートにおいても「大変勉強になった」「先生の熱い思いが伝わってきた」「在宅を支えるためのネットワークづくりについて考えていきたい」「とても楽しく分かりやすかった」と多数の感想をいただき、大変好評であった。

岡山 第1回 岡山大学がん放射線科学コース(インテンシブコース)セミナー

日時:平成28年4月12日(火) 19:00~20:30
場所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第4カンファレンスルーム
参加者:5名

座長:岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹

「放射線治療品質管理基礎技術1(物性)」
岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画している。今回のセミナーではChapter1を中心に、原子の構成と特徴、原子核の状態、量子力学の基礎などについて解説がなされました。大学院相当の内容にもかかわらず、社会人の参加者も含めて熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

参加者から

昨年度より海外の教科書を用いて系統立てられたセミナーが企画されていますが、放射線治療に必要とされる物理計測や管理の知識として、臨床で必要とされる内容を解説して頂きました。日常臨床では、基礎や海外の情報などを得る機会が少なく、こうしたセミナーを通じて、系統立てて学べることは有意義だと思います。ディスカッションでは問題演習などを行ったりすることで、医学物理士試験など資格取得に向けた勉強と対策に有用でした。

岡山 第2回 岡山大学がん放射線科学コース(インテンシブコース)セミナー

日時:平成28年4月19日(火) 19:00~20:30
場所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第4カンファレンスルーム
参加者:8名

座長:岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹

「放射線治療品質管理基礎技術2(原子核物理)」
岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画している。今回のセミナーでは第2回目としてChapter2を中心に、放射能と壊変、放射平衡、核反応、放射化、核分裂などについて解説がなされました。大学院生が参加者の大部分を占めましたが、全員、熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

岡山 第3回 岡山大学がん放射線科学コース(インテンシブコース)セミナー

日時:平成28年4月26日(火) 19:00~20:30
場所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第4カンファレンスルーム
参加者:8名

座長:岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹

「放射線治療品質管理基礎技術3(放射線の特性)」
岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画している。今回のセミナーでは第3回目としてChapter3を中心に、X線管の構造、X線発生回路、電圧整流、X線物理、出力特性などについて解説がなされました。大学院生も含めて、全員、熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

岡山 第4回 岡山大学がん放射線科学コース(インテンシブコース)セミナー

日時:平成28年5月10日(火) 19:00~20:30
場所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第4カンファレンスルーム
参加者:5名

座長:岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹

「放射線治療品質管理基礎技術4(放射線発生器の特性)」
岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画している。今回のセミナーでは第4回目としてChapter4を中心に、X線治療の歴史、低エネルギーX線治療装置の応用、高エネルギーX線発生加速器の応用、放射性核種による放射線治療、粒子線治療の歴史と応用などについて解説がなされました。大学院生が参加者の大部分を占めましたが、全員、熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

参加大学

Consortium Member



川崎医科大学
Kawasaki Medical School

がん専門医養成コース
●事務部教務課
TEL(086)464-1012



岡山大学
Okayama University

がん専門医養成コース・がんプロ在宅高齢者緩和コース
精神腫瘍医コース
●医歯薬学総合研究科等学務課教務グループ大学院担当
TEL(086)235-7986

がん専門・指導薬剤師養成コース
●医歯薬学総合研究科等薬学系事務室教務学生担当
TEL(086)251-7923

高度実践看護師(がん看護)コース
がん放射線科学コース
●医歯薬学総合研究科等学務課教務グループ保健学研究科担当
TEL(086)235-7984



広島大学
Hiroshima University

がん専門医養成コース
がん専門薬剤師養成コース
がん看護高度実践看護師養成コース
医学物理士養成コース
●医歯薬保健学研究科等学生支援グループがんプロ事務室
TEL(082)257-1538



香川大学
Kagawa University

腫瘍内科系専門医養成コース
緩和医療専門医養成コース
腫瘍外科系専門医養成コース
放射線治療専門医コース
●医学部総務課学務室大学院入学試験係
TEL(087)891-2074



山口大学
Yamaguchi University

腫瘍外科アドバンスコース
腫瘍内科アドバンスコース
放射線治療アドバンスコース
研修医腫瘍専門医コース
高度実践看護師(がん看護)コース
●医学部学務課大学院教務係
TEL(0836)22-2058



徳島文理大学
Tokushima Bunri University

がん専門薬剤師履修コース
●香川キャンパス庶務渉外グループ
TEL(087)894-5111



愛媛大学
Ehime University

臨床腫瘍学教育課程がん専門医養成コース
●医学部学務課大学院チーム
TEL(089)960-5868



徳島大学
Tokushima University

臨床腫瘍内科コース・臨床腫瘍放射線医学コース
臨床腫瘍外科コース・臨床腫瘍栄養学コース
●医歯薬事務部学務課大学院係
TEL(088)633-9649

臨床腫瘍薬剤師コース
●医歯薬事務部薬学部事務室学務係
TEL(088)633-7247

臨床腫瘍看護学コース・医学物理学コース
●医歯薬事務部学務課第二教務係
TEL(088)633-9009



高知県立大学
University of Kochi

がん高度実践看護師(APN)養成コース
●学生課大学院担当
TEL(088)847-8580



高知大学
Kochi University

臨床腫瘍内科系コース
放射線治療専門医コース
臨床腫瘍医外科系コース
がん専門薬剤師養成コース
医学物理士養成コース
●医学部・病院事務部学生課大学院担当
TEL(088)880-2263

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム Vol.47

- 編集兼発行者
中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム事務局
TEL 086-235-7023 info@chushi.ganpro.jp
- 印刷所
有限会社 ファーストプラン